

幼少期、自然で遊んだ保護者

子どもも9割「好き」に

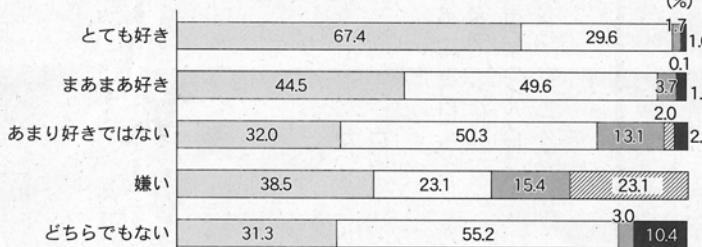
全国国公立幼稚園・こども園長会(会長=新山裕之・東京都港区立青南幼稚園園長)は昨年度と本年度の2年間(本年度事業は新型コロナウイルス感染拡大の影響で1年延期)、「身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究」(身近な自然に触れて遊んで!親子と一緒に楽しまもう!)に取り組んでいる。事業を進める特別事業委員会は昨年度実施した調査の結果をまとめ、幼稚園・こども園や家庭、地域における子どもの豊かな感性の育成に向けた提言を発表した。今回は調査結果について紹介する。

全国国公立幼稚園・こども園長会

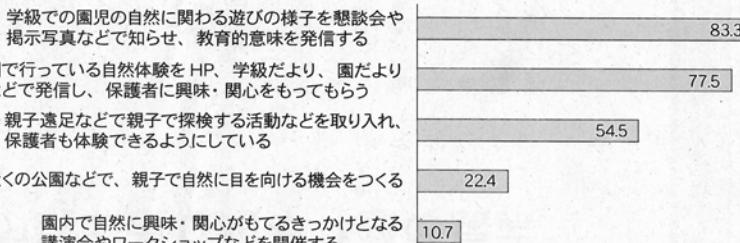
子どもは自然と関わって遊ぶことが好き
保護者は幼少期、自然と関わって遊ぶことが好きだつたか

子どもは自然と関わって遊ぶことが好きか

□とても好き □まあまあ好き □あまり好きではない □嫌い ■どちらでもない



自然と関わる活動を推奨するために園で行っていること(三つ選択、%)



自然との関わりに関する意識・実態調査

全国国公立幼稚園・こども園長会(会長=新山裕之・東京都港区立青南幼稚園園長)は昨年度と本年度の2年間(本年度事業は新型コロナウイルス感染拡大の影響で1年延期)、「身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究」(身近な自然に触れて遊んで!親子と一緒に楽しまもう!)に取り組んでいる。事業を進める特別事業委員会は昨年度実施した調査の結果をまとめ、幼稚園・こども園や家庭、地域における子どもの豊かな感性の育成に向けた提言を発表した。今回は調査結果について紹介する。

調査研究のねらいは、親子の関わりを楽しみながら、自然に触れて遊ぶことを推進して豊かな感性や好奇心を育み、思考力や表現力を基礎を培うこと。

「身近な自然との関わりに関する実態と意識についての調査は、昨年9月に実施し、全国の国公立幼稚園・こども園から抽出した保護者2037人、教諭66人が回答した。

調査結果によると、子どもが日常、園以外で自然に関わって遊ぶ場所は、「近所の公園」と答えた保護者が60.9%と最多で、「自宅の庭やベランダ」が25.2%で続いた。

自然との関わりに関する保護者の幼少期の実態と子供の実態についても調べている。保護者に「保護者は幼少期、自然と関わって遊ぶことが好きだったか」と「子どもは自然と関わっ

「写真などで教育的意味発信」8割

幼少期に自然と関わることが「嫌い」「あまり好きではない」とが「とても好き」「まあ好き」と答えた保護者の子どもは、自然と関わることが「嫌い」とが「とても好き」「まあ好き」と答えた保護者の子どもが、まあ好き」という割合が9割を超えた。

一方で、幼少期に自然と好き」が6割以上いる。

「写真などで教育的意味発信」8割

関わることが「嫌い」「あまり好きではない」と回答した保護者の子どもは、自然と関わることが「嫌い」とが「とても好き」「まあ好き」と答えた保護者の子どもが、まあ好き」という割合が9割を超えた。

一方で、幼少期に自然と好き」が6割以上いる。

「写真などで教育的意味発信」8割

関わることが「嫌い」「あまり好きではない」と回答した保護者の子どもは、自然と関わることが「嫌い」とが「とても好き」「まあ好き」と答えた保護者の子どもが、まあ好き」という割合が9割を超えた。

一方で、幼少期に自然と好き」が6割以上いる。

「写真などで教育的意味発信」8割

関わることが「嫌い」「あまり好きではない」と回答した保護者の子どもは、自然と関わることが「嫌い」とが「とても好き」「まあ好き」と答えた保護者の子どもが、まあ好き」という割合が9割を超えた。

全国国公立幼稚園・こども園長会 豊かな感性の育成へ提言

昨年度と本年度の2年間（本年度事業は新型コロナウイルス感染拡大の影響で1年延期）、「身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究—身近な自然に触れて遊んで、親子で一緒に楽しもう！」に取り組んでいる全国国公立幼稚園・こども園長会（会長：新山裕之・東京都港区立青南幼稚園園長）。事業を進める特別事業委員会は昨年度実施した調査の結果を基に、幼稚園・こども園や家庭、地域における子どもの豊かな感性の育成に向けた提言をまとめた。

いに実施している調査研究。提言は、昨年9月に実施した「身近な自然との関わりに関する実態と意識についての調査」の結果を基

にまとめた。

幼稚園・こども園や家庭、地域で、身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むため、①遊びや生活の中で、より豊かで身近な自然と関わる経験ができるように遊びや環境を工夫しよう②幼児期に、身近な自然に関わり遊ぶ大切さを保護者と共有し、親子で自然との触れ合いを積極的に楽しめるようにして③地域の環境を活用し、親子で身近な自然との触れ合いを積極的に楽しめるように発信しよう—の3つを提言した。

提言① 「遊びや生活中の親子の関わりを楽しみながら自然に触れて遊ぶこと

で、より豊かで身近な自然

がんばりを育み、思考力や表現力を基礎を培うことをねらう」では、「自ら環境に関

いに実施している調査研究。提言は、昨年9月に実施した「身近な自然との関わりに関する実態と意識についての調査」の結果を基にまとめた。

幼稚園・こども園や家庭、地域で、身近な自然との関わりを通して子どもの豊かな感性を育むため、①遊びや生活の中で、より豊かで身近な自然と関わる経験ができるように遊びや環境を工夫しよう②幼児期に、身近な自然に関わり遊ぶ大切さを保護者と共有し、親子で自然との触れ合いを積極的に楽しめるようにして③地域の環境を活用し、親子で身近な自然との触れ合いを積極的に楽しめるように発信しよう—の3つを提言した。

提言② 「身近な自然に触れる遊びや活動を工夫することを挙げる。

また、身近な自然と関わる遊びや活動、園の自然環境を工夫する「園生活で身近な自然と関わる機会を計画的、積極的につくり、児が遊ぶ中で豊かな自然体験を楽しめること」を挙げる。

提言③ 「身近な自然に触れたさまざまな楽しい遊びを保護者に伝え、親子で触れ合いな

る。

その中で、親子で一緒に遊んだり、驚きをもって見つけたりするなど、さまざまな身近な自然と関わり、親子共に心を動かす機会をつくることを求める。また、園の行き帰りや近くの公園などで遊ぶ際、親子で自然環境を見たり、触れて遊んだりしながら、感じたこと、考えたことを話題にして楽しめるようにすることも大切としている。

提言④ 「地域の環境を活用して、さまざまな人材を活用して、さまざまな自然との関わりを楽しむようにすること」を訴え

等を活用して、さまざまな人材を活用し、地域の環境や自然に触れる遊びの具

体例の情報を発信することを求めていた。

その上で実際に取り組むこととして、地域の自然環境の特性を生かした行事や活動を通して身近な自然に目を向け、触れることが楽

長）は提言について、「園庭や公園など、身近な環境

とができる。そこで、自然と関わることも十分に自然と関わることも大事にしてほしい」と考

え、「身近な」というところを強調した」と話す。

また、「地域の人やもの、環境を活用させてもらうことが、『身近な』といふ」と

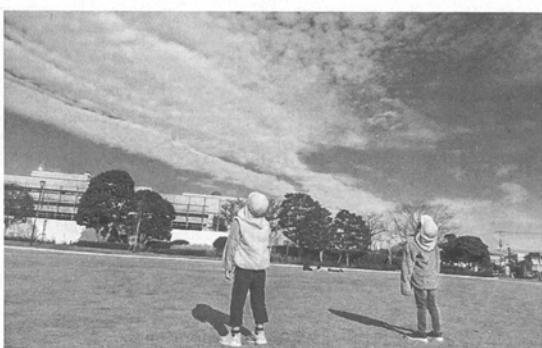
地域の人や自然に触れる重

要性も強調する。

近な自然に触れて遊ぶことの大切さも訴える。そ

の上で「子どもが探究心を存分に發揮できる環境を整

えるため、各園ができるだけ取り組んでいきた



遊びの中で自然体験を 親子共に心を動かして

親子の関わりを楽しみながら自然に触れて遊ぶことと関わる経験ができるように遊びや環境を工夫しようとすると、遊びを楽しむことで豊かな感性や好奇心を育み、思考力や表現力を基礎を培うことをねらう。では、「自ら環境に関わる、十分に身近な自然と

①サツマイモのつるを引き合う子どもたちと保護者／下青空とうご雲、地面の影を見つめる子どもたち（千葉県浦安市立入船南認定こども園）

は、「通園路や地域の公園立入船南認定こども園園